

2017 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第7戦

オートポリススーパー2&4レース

大分県 オートポリス(1周=4.674km)

■渥美 心 JSB1000 予選:25番手 (タイム:1分53秒363) 決勝:20位

天候:2017年 9月9日(土) 晴れ コース:ドライ

9月10日(日) 晴れ コース:ドライ

観客動員数: 14,450人(2日間合計)

080 渥美 心 Cocoro Atsumi
class : JSB1000
machine : Honda CBR1000RR

6 岡崎 静夏 Shizuka Okazaki
class : J-GP3
machine : TSR3

最後まで諦めずに走り切りポイントを獲得

全日本ロードレース選手権第7戦が大分県・オートポリスで開催された。今回も、前回に続き4輪フォーミュラの国内最高峰であるスーパーフォーミュラとの2&4レースとして行われた。ただ、渥美は、前戦のレースを走ることができなかったため、実に約3カ月振りのレースとなっていた。JSB1000クラスの経験が少ない渥美にとっては、少しでも多くの時間を走り経験値を上げて行きたいところだ。

オートポリスは、6月に続き2度目の開催となるが、前回は、深い霧に覆われ、大幅にスケジュールが狂うなど、不安定な天候に悩まされたが、今回は、レースウィークを通じて好天に恵まれた。前回のオートポリスラウンドで、いいイメージがあったため、そのセットからスタートするものの、自己ベストに届かず初日は24番手。



ノックアウト方式で行われた公式予選は、まず全車が走行するQ1(30分間)、Q1の上位10台が走るQ2(15分間)というノックアウト方式。金曜からセットを変更して臨んだ渥美だったが、いい方向に行かず、攻めてもタイムにつながらない。結局、30分はあつと言う間に経ってしまい25番手となる。

決勝日も快晴となったオートポリス。朝のウォームアップ走行は、8時15分から15分間と、JSB1000クラスでは、かなり早い時間に行われた。ここで渥美は、マシンセットを修正し、予選タイムを上回る1分53秒110をマーク。決勝に向けて現状では、ベストな状態に持つて行く。

1周約4.7kmのオートポリスを19周で争われた決勝レース。渥美は、好スタートを切るものの1コーナーでアウトに追いやられてしまいポジションを落としてしまう。そこから1台、また1台と序盤にポジションを上げる。レース終盤には、前で転倒した車両があり、20位でチェッカー。貴重な1ポイントを獲得する結果となる。



渥美 心コメント

「前戦の反省から転倒をしないようにマシンセットを進めていきましたが、限られた時間の中で大きくセットを変える余裕もセッティング能力も足りず、少しずつの振り幅で進めて行きました。決勝でレースウィークのベストを出していますが最初のスピードが低すぎました。次戦は、事前テストがあるので、しっかり意識しながらマシンをまとめて行きたいと思っています」

小原 育監督コメント

「前回の、もてぎラウンドを走れなかったため、6月のオートポリス以来のレースとなりインターバルが、かなり長かったこともあり、持っているベースセットのレベルを上げることを、まずは始めました。金曜から、もっとペースを上げることができれば、もっと上位に食い込めたと思います。次戦は、そこが課題です」